

第1回 建設交通部インフラ長寿命化計画策定委員会 議 事 要 旨

1 日時 平成26年11月11日（火） 9時30分から12時00分

2 出席者

＜委員＞

小林委員長、浦尾委員、岸田委員、鈴木委員、武田委員、田中委員、
玉田委員、中村委員、古川委員

＜京都府建設交通部＞

東川部長、中村技監、井本技監、藤森理事、板屋理事、関理事、
仲久保道路建設課長、久保道路管理課長、大石港湾課長、
小林都市計画課長、田中住宅課長 ほか

3 主な議題

- (1) 建設交通部インフラ長寿命化計画策定委員会について
- (2) インフラ長寿命化計画の策定について
- (3) 建設交通部インフラ長寿命化行動計画（案）について

4 議事概要

- 建設交通部インフラ長寿命化計画策定委員会の設置要領、運営方針、委員会開催スケジュール、検討内容等について、事務局から説明が行われた。
- 京都府におけるインフラ長寿命化計画の検討体制、建設交通部インフラ長寿命化行動計画の基本方針、計画の範囲等について、事務局から説明が行われた。
- 橋梁、舗装、トンネル、法面・擁壁等、代表的な13施設について、現状と課題及び取組の方向性について、事務局から説明が行われた。
- これらの説明が行われた後、各委員から専門的立場からの意見、質問があった。

5 主要意見

- 最適投資で適切に管理するという理念が大切。公共施設等の資産価値の算出は難しい面があるが、企業会計を取り入れた手法も必要。我が国の取組は遅れているが、先進国ではメンテナンスからマネジメントの時代。
- 橋梁や舗装等、劣化予測に基づき中長期的な補修費用を予測できる施設もあれば、河川護岸や道路法面のように、災害時等の外力に大きな影響を受け、一時的に多大な補修予算が必要となる施設もあり、中長期的なメンテナンスコストの算出には留意が必要。
- 施設毎の中長期的投資計画を複数のシナリオで算定し、サービス水準にフィードバックするなど、実行性のある計画とすることが重要。
- 社会情勢や府民ニーズの変化も考慮し、対策の優先順位を決定するとともに、これまでの枠にとらわれない予算配分や施設の廃止を含めた大胆な方針決定が必要。
- 適正なメンテナンスサイクルを確立するためには、体制の整備が重要。国、府、市町村の役割分担や地元情報の有効活用や地域協働事業の推進等、地域力の活用が必要。
- その他、データベース構築の重要性、新設時の留意事項等。